

防災だより

その66

台風に対する備えをしましょう

防災専門官 野田 秀敏

7月から10月を中心に台風が上陸し、土砂災害、河川の氾濫や浸水など毎年大きな被害が、日本の各地で発生しています。

7月～10月を中心に、最も多くの台風が発生、土砂災害、河川の氾濫や浸水など毎年、台風による被害が日本の各地で発生し多くの犠牲者が出ています。特に8月は発生数・接近数・上陸数ともに多くなりますので、台風の進路予想図で、台風の中心位置、進行方向と速さ、中心気圧、最大風速(10分間平均風速)、最大瞬間風速、暴風域、強風域などの台風情報を確認しましょう。

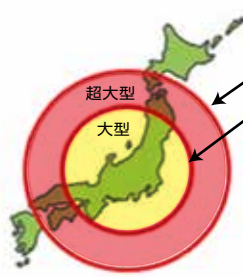


【台風の進路予想図】



▲気象庁ホームページでリアルタイムに見ることができます。

【超大型・大型台風の大きさ】



▲台風の大きさを示す円

【台風の大きさ】

階級	台風の半径
超大型(非常に大きい)	800km 以上
大型(大きい)	500～800km 未満

【台風の強さ】

階級	最大風速
猛烈な	54m/ 以上
非常に強い	44m/ 以上～54m/s 未満
強い	33m/ 以上～44m/s 未満

▲3.5倍すると時速・kmが出ます。

台風とは

熱帯の海で発生する低気圧「熱帯低気圧」のうち、北西太平洋か南シナ海にあつて最大風速(10分間平均) 17 m/s 以上のものを「台風」と呼びます。

タイミング別の台風への対応

3日前

- ・台風情報を、毎日確認する。
- ・災害種別ごとの避難場所や避難経路を確認しておく。
- ・備蓄品を再確認し不足品は購入しておく。
- ・飛ばされそうな物は固定し、格納できるものは、家の中へ格納する。
- ・避難を考慮して、身近な人や隣近所に連絡しておく。

2日～1日前

- ・家の暴風対策を終えておく。
- ・停電対策や携帯電話の充電を終えておく。
- ・非常時持出品を、身近に準備しておく。
- ・ハザード内や高齢者などは、市の自主避難所開設時は、早めに避難する。

1日前から接近時

- ・不要不急の外出を控える。
- ・市の避難情報や災害情報の発令時は、すぐに避難する。
- ・万が一、避難が遅れたら、自宅の高い階か、近くの頑丈な建物に避難する。
- ・屋外作業、川や用水路の見回りは、絶対にしない。

台風情報に注意し、避難情報が出ていなくても身の危険を感じたら、自らの判断で避難することが大切です。

コミュニティ無線をととしてのJアラート試験放送を実施します

問い合わせ 防災安全課 防災対策係(☎内線519・531)

緊急時にJアラート(全国瞬時警報システム)の情報がコミュニティ無線で正常に放送できるかを確認するため、全国一斉試験放送を本市でも実施します。皆さんの理解と協力をお願いします。

- 放送日時 ・8月23日(水) 午前11時 ・11月15日(水) 午前11時
 ・令和6年2月9日(金) 午前11時
 放送内容 「これは、Jアラートのテストです」を3回くりかえし
 「こちらは太宰府市です」を1回放送

※状況に応じて、中止または延期される場合があります。

